

2025年 3月 浜松聖書集会のご案内

(時間 : 午前10時 ~ 正午)

- 3月 2日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会 : 永井 徹
聖書講話 : ミカ書 7章1~6節
「腐敗はどこから始まるか」 水戸 潔

- 3月 9日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会 : 生江 扶左子 感話 : 武井 めぐみ
聖書講話 : ローマの信徒への手紙 2章1~14節
「キリスト者の悔い改めとは」 笹井あかね

- 3月23日 (日) 集会 (クリエート浜松21号室)
司会 : 岩田 堯
聖書講話 : ヨハネの黙示録 19章
「小羊の婚礼の日が来た 白馬の騎手が現れた」 武井 陽一

- 3月30日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)
司会 : 大手 美千代
聖書講話 : ローマの信徒への手紙 7~9章
「キリスト・イエスに結ばれている者は罪に定められることはない」
溝口 春江

私の民よ 大バビロンから離れ去れ (ヨハネの黙示録18章4節) 溝口 正

私はこの頃、時折り神に背く腐敗し切った祖国日本からの脱出をふと考えることがある。脱出先はいずれかの外国であろうか。どうもそうではなさそうな気がする。なぜなら、人間の罪は、どこの国へ行っても渦巻いているのであるから…。

実は私事で恐縮であるが、あれこれ23年位も前のことになるが、私は自治会(町内会)と神社の関係がゆ着し一体化して「自治会神道」になっている現実を正すために、自治会役員会議の中で憲法第20条(信教の自由)や89条(政教分離)について説得すること約20年、しかし理解が得られず、遂に訴訟にまで発展したとき(これが先ほど書いた23年前のこと)、心ならずも自治会を脱会する羽目になったことがある。しかし私は現住所に住み続けた。隣近所の人々は皆、自治会の会員ばかりで私は完全に孤立してしまった。

その時の私と家族の脱出先は、生けるキリストの御側(みそば)であった。そこで私は満ち溢れる神の祝福と平安の中に守られ、正々堂々と裁判も戦うことができた。この実際の経験により日本脱出と言っても霊的に脱出することが可能であることを知ったのである。即ち、信仰によって生ける神のいと近くへと脱出して、ますます神の愛に守られつつ現実と戦うことができた。日本にいながらにして日本脱出は可能である。

(1999年2月『復活』第387号)